

## 全体講評

課題文に対して自分なりの意見をまとめたうえで、本題に入るという流れは良いです。しかし課題文への意見にしても、日本でのアートのあるべき姿にしても、中身はまだ不十分です。

まず、第一段落の課題文に対しての意見ですが、内容がかなり抽象的でなぜそういえるのか、具体的にどういことを指しているのかがイメージできません。課題文に書いてあることを鵜呑みにせずに自分なりの意見を書こうとしている姿勢は良いのですが、話が抽象的なだけに説得力を持ちません。下段に書き方の一例を示しました。

つぎに日本でのアートの在り方についての部分です。音楽療法の例としてはよいのですが、これは課題文のアートの精神性とは直接結びつきません。課題文の中でいうアートの「精神的なとらえ方」というのは、アートを個人の自由を表現する手段として精神的な意味でとらえていることを指します。日本では、アートは絵画を買ったりコンサートを聴きに行ったりと楽しむものにとらえられていますが、欧米では自分たちが革命によって手入れた、表現の権利であるという精神的な意味でとらえていると筆者は述べています。(フランスでイスラム教の預言者を風刺した新聞社が襲撃された時、欧米では「私はシャルリ」という言葉を掲げて新聞社を多数の人が支持しました。そこにこの精神性を読み取ることができます)音楽療法の、あくまで人間の精神のリラクゼーションに有効であるという意味ですからここでの「精神的なもの」と直接結びつきません。少し表現を変えてみましょう。なお下段の答案の一例では、初めに「日本には欧米と違う精神性がある」と指摘して音楽を施設や病院で利用するという話に展開にしています。

この後、ベネズエラの音楽の利用の例が1ページ近くに渡って書かれていますが、外国の事例を長々と書くのではなく日本でこの政策を導入するならば、どんな人を対象にどんな方法で進めていくのか、それを具体的に書いて下さい。

3回分拝見しましたが、気をつけてほしいのは課題文をまとめる際は抽象的な話にならないこと、自分の意見を述べる際は、取り上げた例がこれでよいか確認する事、そのためには設問を何度も読んで、出題者は何を求めているのかを正確に理解する必要があります。

読解力	論述力	説得力	独創性	得点	合格目標点
<b>B</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	<b>B</b>	<b>65</b>	<b>70</b>

### 書きなおす上での注意点

答案をどのように構成すればよいか、一例です

#### 課題文に対しての意見

- ・日本では欧米のようにアートが「自由の表現」という意識は希薄だが、だからと言って「精神性がない、即物的だ」とは言えない
- ・(具体例) 華道や書道は単に作品を作るという目的だけでなく、人間の精神修養、豊かな人間性の育成なども目的としてたしなまれてきた。欧米とは違う精神的な意味をアートに見出してきた。

#### 日本でどのようなアートが望まれるか

- ・このような背景から、アートを人格形成や、心の成長に積極的に生かしていくべきだ。
- ・(具体例) 不登校の子供たちに和太鼓を教えて、前向きな気持ちや社会とのかかわりの機会を持たせるという試みが関西の施設で行われている。
- ・自分の気持ちを外に出すのが苦手な子供も、音楽であれば表現しやすい。仲間と一つのものを作り上げる喜びを感じ社会性も身についてくる。
- ・このような効果は音楽に限らず絵画や工芸などでも応用できる。また、病院の入院患者や障害者施設などに対してはもちろん、健常者であってもアートに気軽に触れる場があることでストレスから解放され健全な精神の育成に役立つ。
- ・日本では健全な人格、精神の育成という目的で古くからアートが愛好されてきた。その下地を活かしてこれまで以上に人々の健全な精神の育成、豊かな心をはぐくむことに役立つと良いと考える。